

段級

唐の時代  
徑と書いた

徑  
||  
徑



はなひるがえーこうけいくれなび  
花飄つて香徑紅なり  
落花が道までをもうずめ花の香がみちている  
(張祐)

欧陽詢(唐)の九成宮醴泉銘から字を集めて、  
倣書(背臨)で書いています。九成宮醴泉銘は  
「倣書の極則」と評されている。字形は端正、  
タテ長、厳格で、切れ味鋭い筆法、背勢で  
直線的である。全体に、上に狭く、下に広い  
特徴がある。

